

- 病院情報システム（特にオーダリングシステム）が多くの医療機関で導入されている。
- 処方や検査等の病院情報システム内のデータベースを利用することによって、スタチン類による筋障害発症の実態を調査することは可能である。また、薬物肝障害についても適応できる可能性がある。
- 病診連携されたデータの利用による個々の症例情報の継続性の向上は非常に有用と考えられる。
- 副作用の発生頻度に関する情報を比較的容易に把握できれば、市販後の安全対策にも応用することが可能。